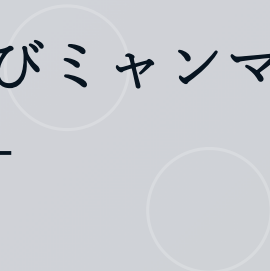



# 選ばれた日本：アジア諸国からの 来日者の期待と来日後の現実

—ベトナム、ネパール、インドネシア、およびミャンマー人  
来日者を中心とした比較研究—





# 研究背景と目的

最近、日本が「選ばれる国」となるというキーワードが新聞記事や行政書類に多く見られるが、ベトナムのみならず、ネパール、インドネシア、ミャンマーなどの諸国から日本を選んで来日する人々が増加しているのは現状である。すでに外国人によって「選ばれた日本」の実態や現状を明らかにすることも大事だと認識している。

調査対象：在日ベトナム、ネパール、インドネシアおよびミャンマー国籍

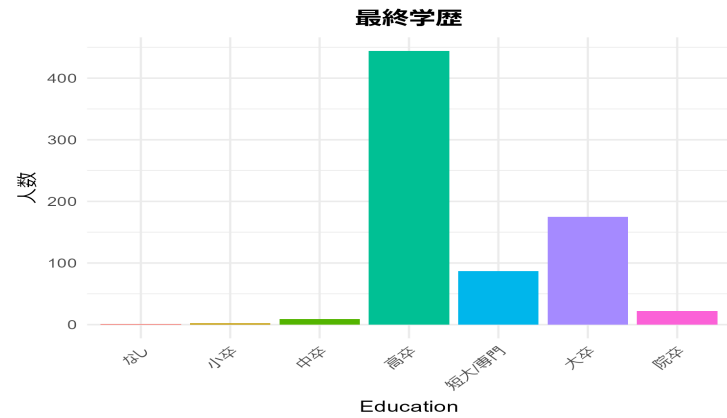
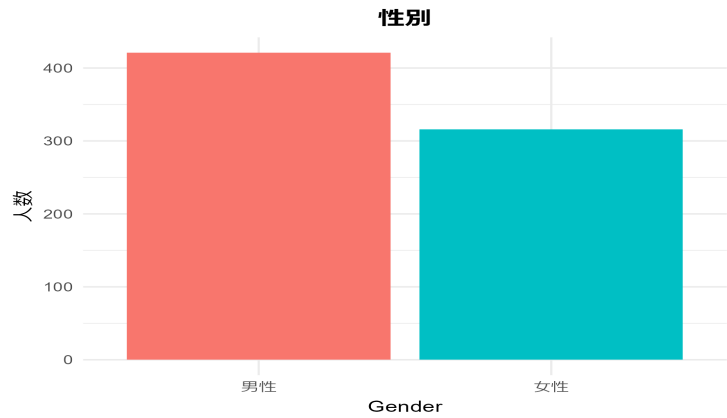
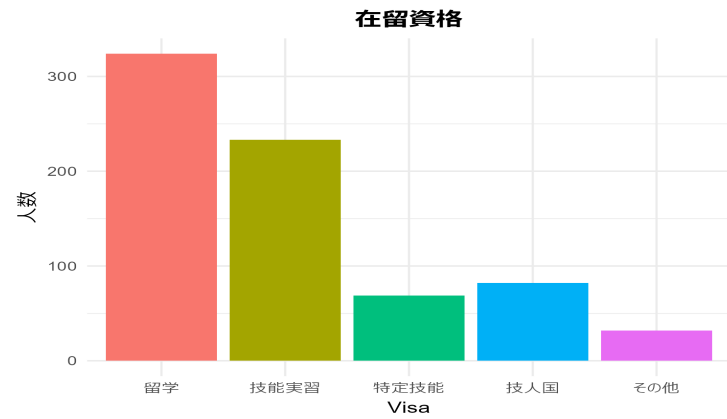
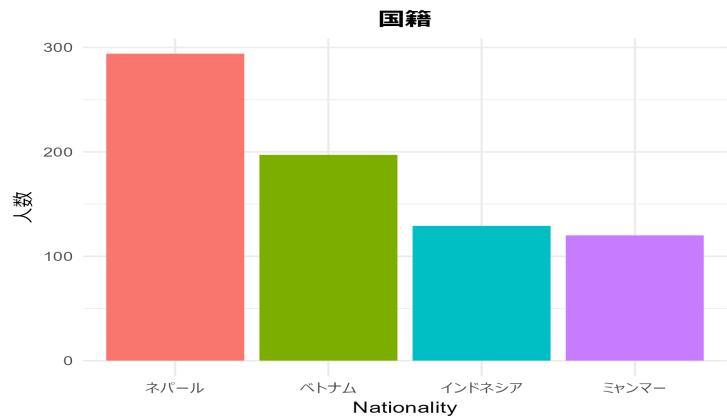
今回の報告では、「準備ギャップ」と「職場暴力」のリスク要因分析について着目し、「彼らは日本の実態を知らずに来る（情弱である）からトラブルに遭うのではないか？」という『準備不足説』を検証する


問い (RQ):

- ①準備ギャップ（情報の非対称性）は暴力の原因なのか？
- ②暴力のリスクは「国籍」にあるのか、「制度（在留資格）」にあるのか？

# デモグラフィ

## 回答者 (n=740)





# 分析の枠組みとデータ概要

## ①調査対象:

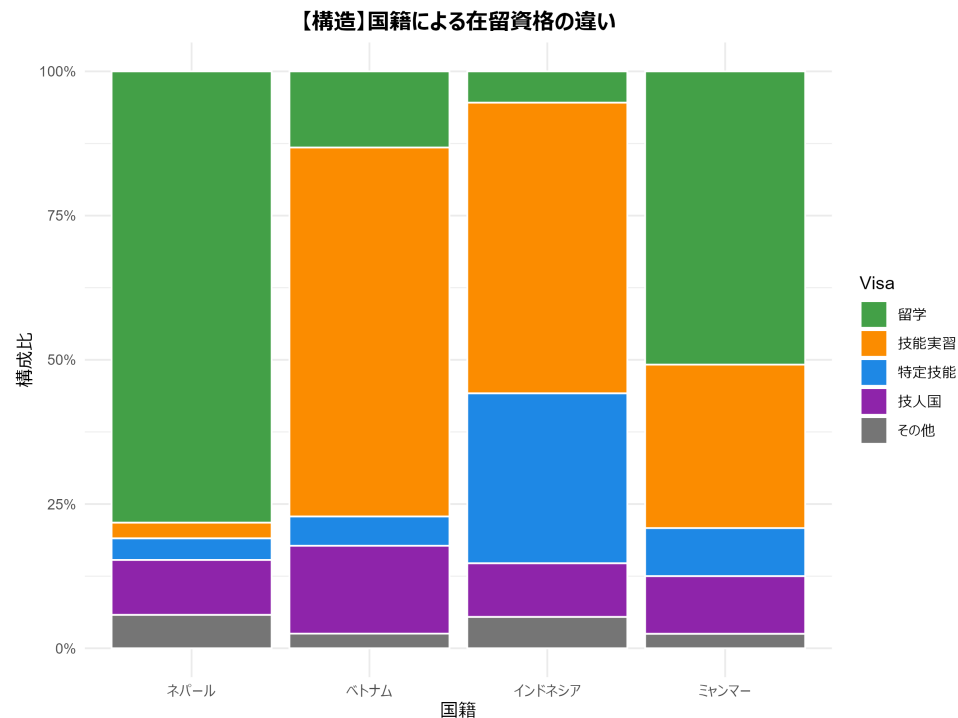
- 日本で働く外国人労働者サンプル数:  $n = 740$
- 対象国籍: ネパール、ベトナム、インドネシア、ミャンマー

## ②分析環境: R (Statistical Computing)使用パッケージ:tidyverse (データ加工・可視化)psych, gmodels (記述統計・クロス集計)scales, gridExtra (グラフ整形)

## ③分析手法 (Methodology)

- 以下の2段階で検証を行いました。
- 個人要因の検証 (単変量解析)
  - 手法: t検定 (t-test) / 分散分析 (ANOVA)
  - 目的: 「準備不足 (ギャップ) と暴力被害に関連があるか？」を統計的に検定。
- 暴力決定要因の特定 (多変量解析)
  - 手法: ロジスティック回帰分析 (Logistic Regression)
  - モデル:
    - 簡易モデル: 国籍と在留資格のみで分析。
    - 統合モデル: 企業規模、支援レベル等をすべて投入し、他の要因を制御した上での真のリスク要因 (オッズ比) を算出。

# 国籍 × 在留資格



国籍（ネパール・ベトナム・インドネシア・ミャンマー）と在留資格（留学・技能実習・特定技能・技人国・その他）のクロス集計を行った。

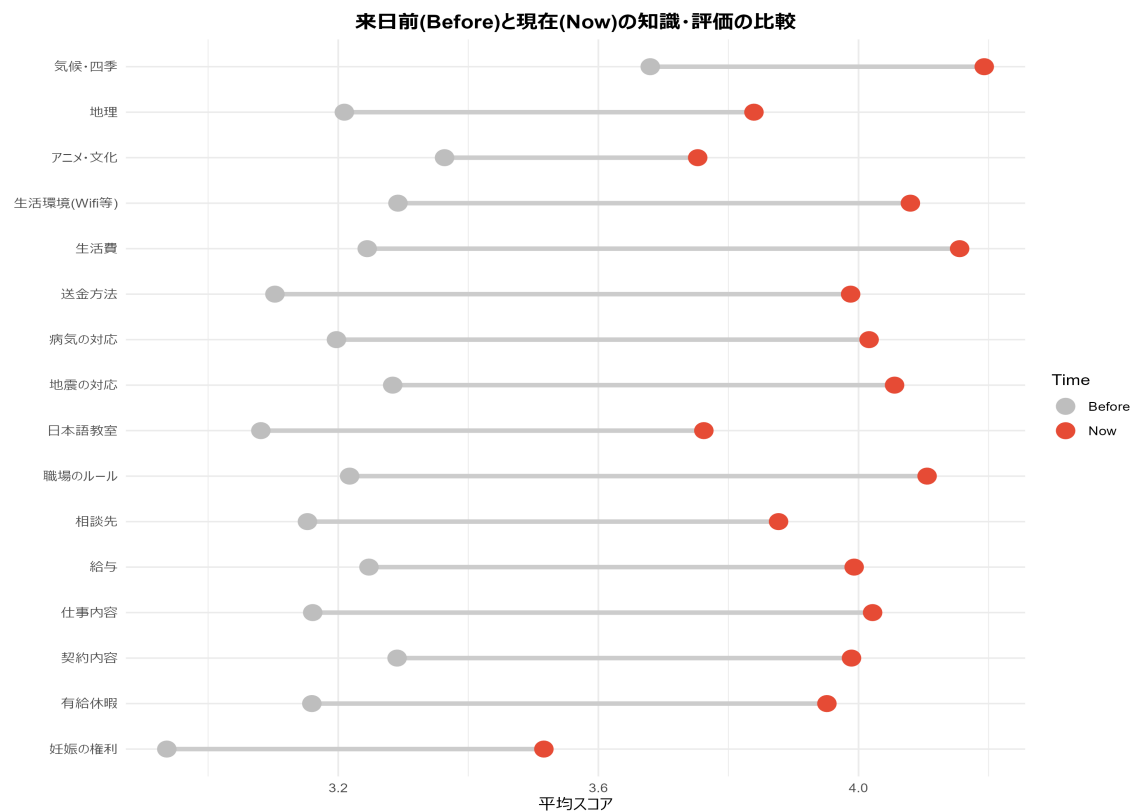
カイ二乗検定の結果、両者の間には非常に強い関連がみられる。

$$\chi^2(12, N \approx 740) = 402.96, p < .001$$

これは、どの国籍の人がどの在留資格ルートで日本に来るかが、偶然ではなく、かなり構造化されていることを意味する。

つまり、「誰がどのビザで来るか」は、個人の選択だけでなく、国籍ごとに異なる制度的な経路に組み込まれていると解釈できる。

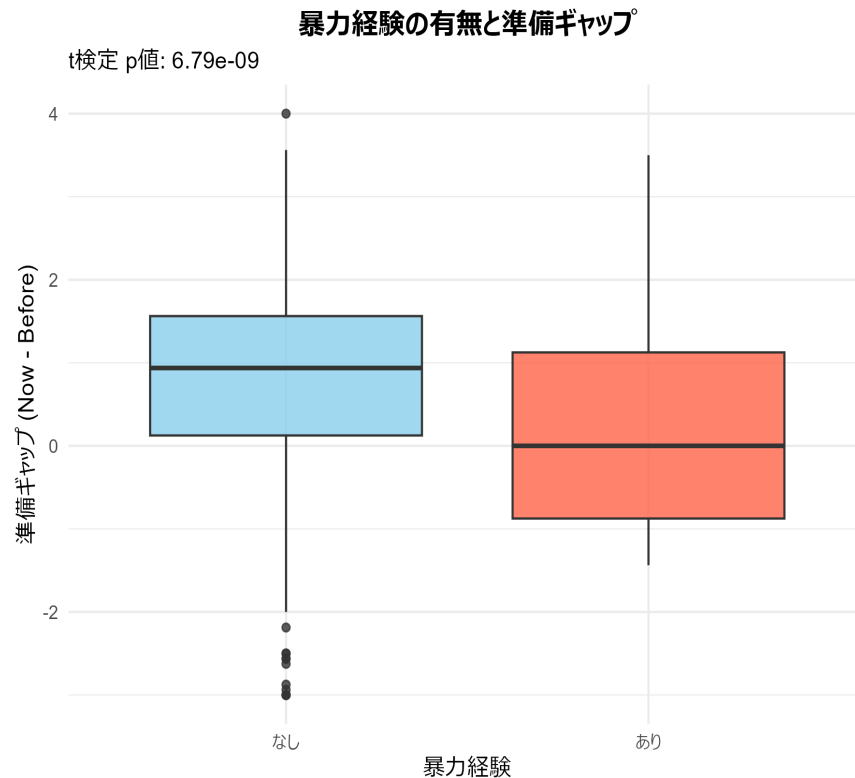
## 【本論1：準備不足説の検証】彼らは何を知って来日したか？



「来日前と現在の知識・理解を比べたのがこの図です。

給与、仕事内容、生活費、相談先など、ほとんどの項目で、赤い点（現在）の方が右側にあり、来日後に知識・理解が増えていることが分かります。つまり、多くの人が『来てから現実を学んでいる』状態にある。

# 【検証1】準備不足は暴力の原因か？



- 分析結果: t検定  $p < .001$ 
  - 暴力被害「なし」層: ギャップが大きい (平均 0.83)
  - 暴力被害「あり」層: ギャップが小さい (平均 0.15)

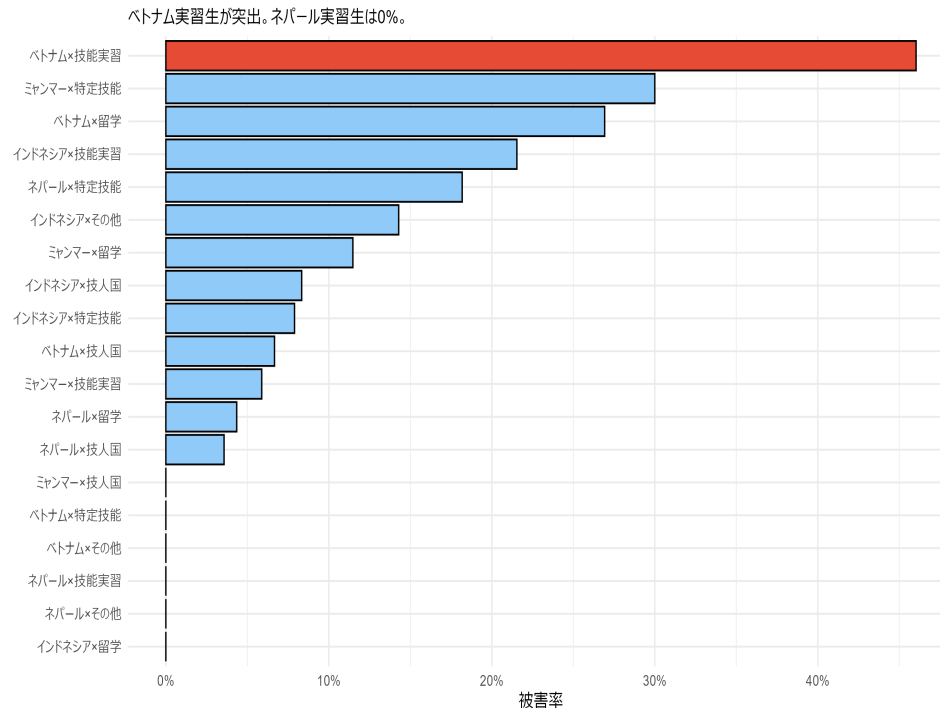
縦軸は『現在の理解 - 来日前の理解』、つまり来日後どれだけ理解が増えたかを表す。

結果を見ると、むしろ暴力を経験していない人の方が、来日後に理解を大きく伸ばしています。一方、暴力被害のある人は、ギャップ（伸び幅）が小さい。

したがって、少なくともこのデータからは、『ギャップが大きい＝準備不足だから危険』という単純な説明は支持されない。

## 【本論2：リスクの所在（国籍 vs 在留資格）】

【実態】グループ別暴力被害率



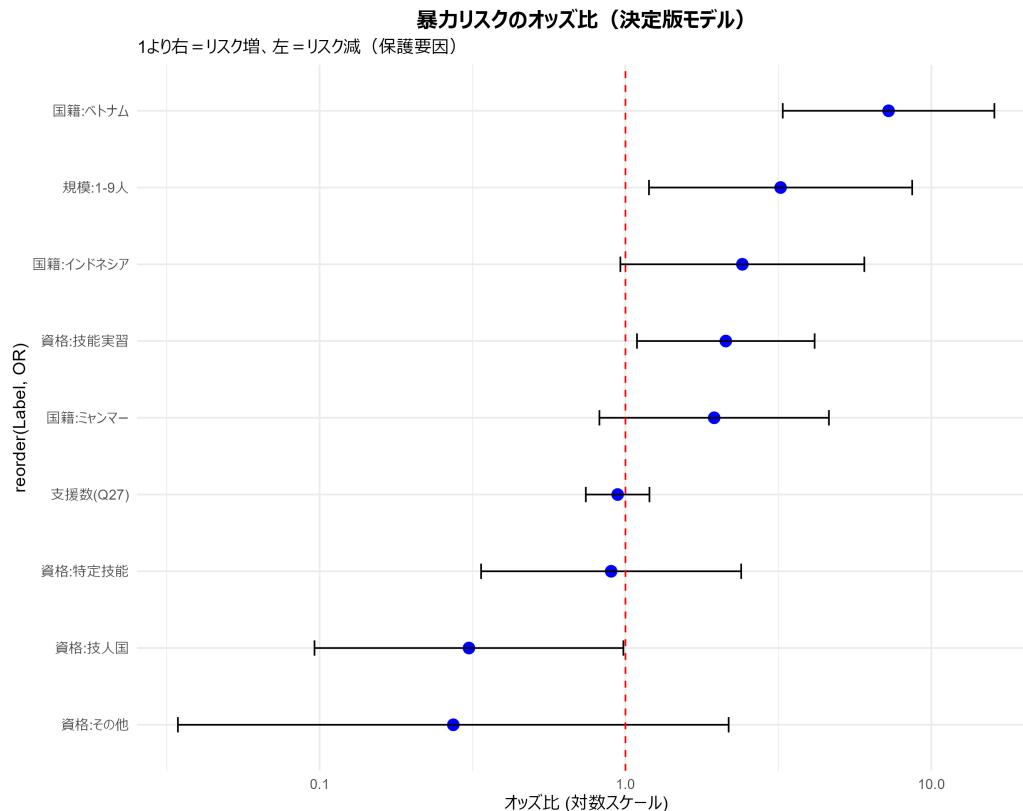
### 簡易モデルでの分析

- 内容: 国籍と在留資格のみを用いたロジスティック回帰
- オッズ比:
  - ベトナム国籍：7.15倍
  - 技能実習生：2.09倍

→ネパール留学を基準にすると、ベトナム国籍のオッズ比は約7.1倍、技能実習のオッズ比は約2.1倍となりました。この段階では、『ベトナムも技能実習も両方危ない』という見え方になります。



## 【検証3】暴力の決定要因




- 内容: 企業規模・支援数などをすべて制御した結果
  - ベトナム国籍：7.25倍（依然高い）
  - 技能実習生：2.13倍（有意に残る）
  - 1-9人企業：3.22倍（大企業比、有意）
  - 支援数(Q27)：0.94倍（有意ではない）

ベトナム国籍のオッズ比は約7.3倍、技能実習のオッズ比は約2.1倍と、高いリスクが残る。さらに、1～9人の小規模企業は、大企業と比べて約3.2倍のリスクがある。

一方で、相談相手の数（支援数）はオッズ比0.94で、有意な効果は確認されなかった。



- 本研究の結果は、暴力リスクが個人の準備不足に起因するのではなく、特定の国籍・在留資格・企業規模によって構成される**制度的配置の構造**の中で生み出されていることを示唆している。  
→ベトナム・技能実習・小規模企業
- 支援が「予防」ではなく、「事後対応」になっている可能性と個人のネットワークでは、在留資格の制約や職場の権力非対称性を克服できないことを示している。



# 参考文献

JICA (2022) 「日本が選ばれる国になるために。外国人との共生社会のあり方」

[https://www.jica.go.jp/information/topics/2022/20220711\\_01.html](https://www.jica.go.jp/information/topics/2022/20220711_01.html)

国土交通白書 (2024) 「担い手不足の解消～外国人材に選ばれる国へ～」

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004/html/n1212c04.html>

日本経済新聞 (2024) 「日本は「選ばれる国」でいられるか アジアで見た現実」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE287WD0Y4A820C2000000/>

巢内尚子, 2019, 『奴隷労働ーベトナム人技能実習生の実態』花伝社.

巢内尚子, 2021, 「コロナ以前／以降の重層的困難と連帯の可能性」ーベトナム人技能実習生への調査から」 『アンダーコロナの移民たちー日本社会の脆弱性が現れた場所』鈴木江里子著編. 朝石書店